

## 令和5年度 看護師職能Ⅱ委員会 活動報告

### ■委員名

委員長：於田里実

副委員長：

委員：岩崎妙子      嶋田加壽代      大垣智子      伊藤 都      吉本育枝      加藤美奈子  
          岸本知加子      構 恵子      和田豊子      井上阿貴子      山中 彩

### ■活動目標

1. 地域で暮らす方々を支える看護職の連携を推進させる。
2. 暮らしの場における看取り対応を充実させる。

### ■委員会開催状況と検討内容

回	開催日	出席者	内容
1	令和5年7月8日	9名	・今年度活動計画等についての説明と確認 ・7/28全国職能委員長会に向けての意見集約等
2	令和5年8月26日	10名	・交流会準備、情報共有等 ・三職能合同交流会参加
3	令和5年9月9日	9名	・三職能合同交流会振り返り等 ・地域で働く看護職交流会についての検討
4	令和5年10月21日 (オンライン併用)	9名	・11/4交流会打ち合わせ、役割分担 ・近畿地区職能委員長会報告・令和5年委員会活動報告作成
5	令和5年11月4日 (オンライン併用)	11名	・交流会の準備、最終役割確認等 ・地域で働く看護職交流会開催
6	令和5年11月25日 (オンライン併用)	6名	・11/4交流会の振り返り ・令和6年度委員会活動計画について検討
7	令和6年12月16日 (オンライン併用)	7名	・11/4交流会のアンケート結果確認 ・次年度重点方策及び重点事業等についての情報提供
8	令和6年1月20日 (オンライン併用)	9名	・次年度研修についての検討 ・研修企画書作成等
9	令和6年2月10日 (オンライン併用)	9名	・活動報告、活動計画について再検討 ・看護協会広報誌の原稿作成についての検討等
10	令和6年3月23日	6名	・全国看護師職能Ⅱ委員長会の報告 ・看護師職能ⅠⅡ交流会についての検討等

<p>■活動内容</p>	<p>1. 保健師助産師看護師合同職能集会  日 時：令和5年6月15日 9：30～12：00  場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用）  内 容：令和4年度看護師職能Ⅱ委員会活動報告  令和5年度看護師職能Ⅱ委員会活動計画  基調講演  テーマ：折れない心を作る組織環境～働きやすく・活気ある職場環境～  講 師：Nバク 氏（看護管理職 YouTuber）</p> <p>2. 保健師助産師看護師職能合同交流会  日 時：令和5年8月26日 13：30～16：30  場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用）  テーマ：苦情・クレーム対応はチームワークだ！～プライベートにも活かせる  コミュニケーションスキルアップで苦情やクレームの7割は防げます～  講 師：Happy-Mc 代表 高山かずえ 氏  参加者：155名（会場60名 オンライン95名）</p> <p>3. 看護師職能ⅠⅡ委員会合同交流会  日 時：令和5年10月21日 13：30～15：30  場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用）  テーマ：看護管理者のための訪問看護研修～退院調整のカギを握る人材育成～  発 表：研修受け入れ施設 塚口訪問看護センター 小林澄子 氏  加東市訪問看護ステーション 藤原麻紀 氏  参加者：55名（会場23名 オンライン32名）</p> <p>4. 看護師職能Ⅱ委員会交流会  日 時：令和5年11月4日 13：30～16：00  内 容：「高齢者の緩和ケア」  ～症状マネジメントと丁寧なチームケアで  尊厳ある生活を支える～  講 師：有馬温泉病院 看護部長・老人看護専門看護師 西山みどり 氏  参加者：100名（会場25名 オンライン75名）</p>
<p>■活動の評価</p>	<p>1. 地域で暮らす方々を支える看護職の連携を推進させる。</p> <p>治療が終われば早期に在宅医療となる昨今、医療機関から在宅や施設へ療養の場が変わる際、治療や服薬等の情報共有が不十分であった場合、疾患の悪化やADL低下等のリスクを招きやすい現状がある。その為、住み慣れた自宅等で安定した療養生活を継続させる為には、退院後の在宅を見据えた看護師間の情報共有がとても重要となっている。</p> <p>そこで、看護師職能委員会ⅠⅡ合同交流会では医療機関の看護管理者が訪問看護ステーションで研修を受けた結果報告や受け入れ訪問看護ステーション管理者等との意見交換を実施した。結果、医療機関の管理者が訪問看護ステーション研修を受けたことで地域や在宅療養の現状等を知ることができていた。また、看看連携を推進するためには、医療機関の管理者が地域を知った上で連携体制の充実を図る等、多くの気づきを得られていた。また、実習を受け入れた訪問看護ステーション管理者からは、医療機関の管理者に地域の現状を知っていただくことで管理者間の連携が図れ、看看連携の充実に向けた体制づくりが強化されること等に大きな期待を寄せられていた。そ</p>

	<p>の為、今後も看護師間の繋がり強化を目的とした「看護管理者による訪問看護研修」を継続していきたい。</p> <p>2. 暮らしの場における看取り対応を充実させる。</p> <p>地域で働く看護職交流会では、高齢者の緩和ケアを充実させる為に療養生活を安楽にする症状マネジメントと、多職種チームアプローチにおける看護の役割を学ぶことをねらいとした研修会を行った。安楽な生活を支える上で困っていることに関する事前アンケートを行ったところ、423件の意見が寄せられた。これにより、日々の看護現場における安楽なケア実践について課題を持ち、改善を目指したいと積極的に参加された方が多いと推測された。研修後のアンケートでは、老年症候群・廃用症候群を踏まえて、推論からマネジメントをしっかりと行う事を再認識できた。充実した内容で事例も多く、学びを深める事ができた。非言語的な訴えを読み取ることや、医療、生活の場における専門性と協働について学ぶことができていた。日常生活において丁寧なケアが苦痛の緩和、尊厳保持につながることを改めて再認識することができた等多くの学びを得られていたことが分かった。また、痛み・食事・排便・睡眠・不安・鬱・せん妄・呼吸困難等多くの症状マネジメントが十分行えず困っていたが、研修を受けた事で自身のケアの振り返りや、マネジメントの具体策等を見出すことができた等、全ての参加者より「今後役立つ」との回答が得られており、満足度の高い研修であったと評価できる。</p> <p>暮らしの場における看取り対応の充実に関しては、「何もできなかった」と自身の対応に無力感を持つ職員が多く、達成感ややりがいを持たせることが看護師の重要な役割であることを認識した。今後も看取り対応を充実させていく為には、多職種支援チーム内で看護師がマネジメント力を発揮し中核的な役割を担っていくことが重要である。</p>
<p>■今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職間の連携で地域包括ケアシステムを充実させる。</li> <li>・多職種チームにおける看護師のマネジメント力向上</li> </ul>